

障がい者補装具費支給事業等について

(質問) 障がい者の方々が日常生活や社会生活を営む上で、補装具費支給事業、日常生活用具給付事業などがある。各自治体の判断で、障がい者の要望、声が反映できる日常生活用具給付事業において、重度の聴覚障がい者のための人工内耳用電池交換などを助成している自治体が全国的に増えている。県内でも松阪市、伊勢市、津市が既に実施しているが、手話言語条例のある本市においても助成対象にしては。

(答弁) 支援の優先度、重要度を考慮し、近隣自治体の状況を踏まえながら、今後判断していきたい。



人口減少対策について

(質問) 現在、大都市から地方への人口流出が始まり、人口増の都市間競争となっている。一方で本市の状況は、四日市市・津市・亀山市などへの人口流出が深刻な状況で、現行の対策では人口減少に歯止めがかからない。新たな発想で、大胆な政策に取り組む必要があるため、庁内に「人口減少対策プロジェクトチーム」を設置し、危機感を持って取り組むべきである。

(答弁) 現状を真摯に受け止め、危機感を持って人口減少対策に取り組む。庁内一丸となり横断的な視点で効果的な施策を検討し、次期総合計画に反映させる。



ごみ問題について

(質問) 香川県三豊市が全国初として採用している「ごみを燃やさない処理方式」について、本市ではどのように研究しているのかを問う。

(答弁) 三豊市ではバイオマス資源化センターみとよを建設し、全国初のトンネルコンポスト方式で燃やせるごみを粉碎し、発酵・乾燥させ、最終的に固形燃料の原料を生成している。民設民営のPFI方式で、民間事業者が施設の所有も運営も行う全国的にもまれな事業スキームであり、事例が少ないことから、今後調査・研究していく。

その他の質問 ○夜間中学



末松市長が描く将来都市像について

(質問) 末松市長の3期12年間の実績と、さらなる鈴鹿市の成長と発展に向けた抱負と決意は。

(答弁) 本市初の防災公園である桜の森公園の整備などの防災・減災施策、中学校給食の完全実施などの教育施策、新型コロナウイルス感染症予防対策など、さまざまな施策に取り組んできた。今後も、本市を取り巻くさまざまな課題に対して、3期12年間の経験を生かし、さらに力強く積極的に取り組むため、次期の4年間においても、市民の負託に応え、本市が未来へ輝き続けるために、全身全霊で取り組んでいく。



各委員会での主な議案審査状況、討論および一般質問の記事に掲載しているQRコードをスマートフォンで読み取っていただくと、動画(YouTube)をご覧いただけます。

